

(2016 年度) 第 5 回応用地形判読士資格検定試験 二次試験問題

〔午前の部〕

実技試験の注意事項

- (1) 実技試験の実施日時は、2016 年 11 月 26 日（土）の 10 時 0 分から 15 時 0 分までとする。
 - ・ 午前の部：10 時 0 分から 12 時 0 分までの 2 時間.
 - ・ 午後の部：13 時 0 分から 15 時 0 分までの 2 時間.
- (2) 試験開始後 1 時間は、退場を認めない。
- (3) 解答は、図示を求める問題に対しては〔地形図〕（地形判読記号などを記入する〔記号凡例用紙〕を含む）に、記述を求める問題に対しては〔マス目入り答案用紙〕に、それぞれ記入すること。

地形図（記号凡例用紙を含む）およびマス目入り答案用紙には、受験番号を必ず記入すること。
- (4) 指定した読図範囲について、問題にしたがい読図すること。実体視できる範囲については、読図に加え空中写真判読を行うこと。

これらの結果は、その地形図に図示すること。図示するにあたり、地形種の輪郭は明確に記入すること。ただし、地形種は、地形判読記号，色，模様などにより判別できる程度としてもよい。
- (5) 地形図に記入する地形判読記号，色，模様などは、特に定めない。ただし、使用した地形判読記号などは、別に配布してある〔記号凡例用紙〕に記入すること。
- (6) 試験の開始にあたり、印刷の不鮮明な点がないことを確認すること。
- (7) 試験開始後は、参考書籍のほか、携帯電話など電子機器類の使用は一切禁じる。

また、携帯電話など音を発生させる機器類は、必ず電源を切ること。
- (8) この注意事項の説明後は、原則として質問に応じない。
- (9) 試験終了後、この問題用紙は持ち帰ってもよい。

ただし、①地形図（記号凡例用紙を含む）、②マス目入り答案用紙、③空中写真は、机の上に残すこと。

◇ 地形図と記号凡例用紙および答案用紙には、受験番号を必ず記入すること。

《問 題》

1. 地形図に実線で示した範囲について、地形図読図と空中写真判読によって山地・丘陵を除く部分の地形種を分類し、その結果を地形図上に図示しなさい。

地形分類記号などは任意に設定して、別紙の「記号凡例用紙」に記入しなさい。

2. 次の a) と b) の質問に、マス目入り答案用紙に合計 800 字を超えないように記述しなさい。

必要に応じ、地形図中の参照する地点・地域に、記号・番号などを付してもよい。

- a) 1. で行った地形判読に基づき、判読した範囲において河川堤防の破堤する可能性が高いと思われる 5 地点を選び、①地形図上に✕印で示し、②選定した理由を記述せよ。

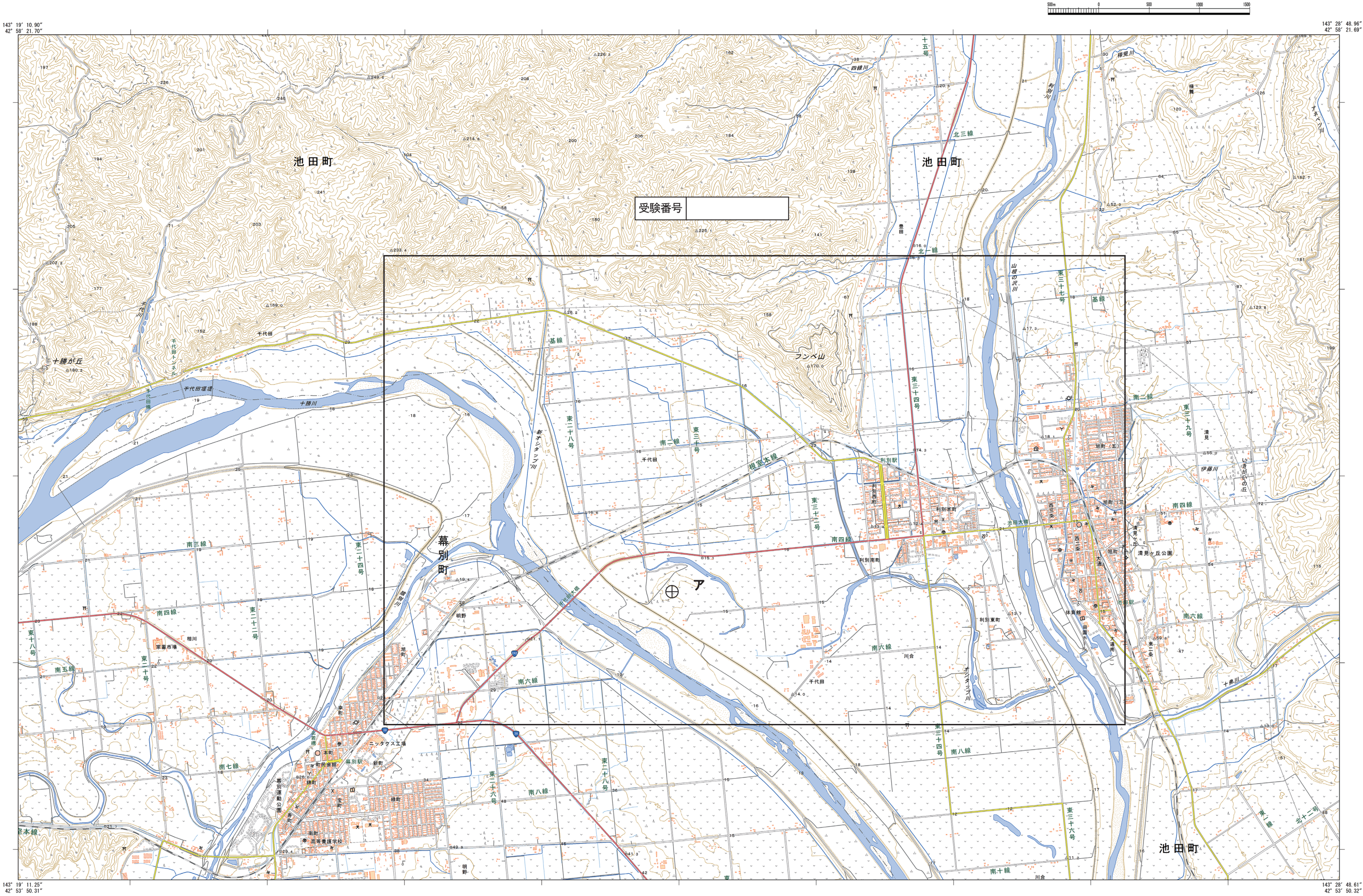
- b) 地形図に⊕印で示すア地点で調査ボーリングを実施して、下の柱状図を得たと仮定する。柱状図にある土質区分 A の土質を推定し、その根拠を記述せよ。

深度 (m)	層厚 (m)	土質区分	N 値
1.60	1.60	A	0
3.00	1.40	シルト混じり砂	5
3.50	0.50	砂礫	30

＜参考＞

地 形 図 国土地理院「電子地形図 25000」／出題範囲は図示の緯度・経度を参照
(データ取得日：2016 年 10 月 12 日)

空中写真 整理番号：HO-2002-1X／コース番号：C7／写真番号：15－18



1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°

2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛

3. 高さの基準は東京湾の平均海面

4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約8° 40'

6. 図式は平成24年電子地形図25000図式

7. 本図上部の枠内には、この地図の購入者が
入力したものをそのまま記載しています